

氏名： 大森 美香 (OMORI Mika)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
職名： 准教授
学位： Ph.D. Indiana University 2001年8月
修士(心理学) 筑波大学 1993年3月
専門分野： 臨床心理学, 健康心理学
E-mail: omori.mika@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

感情能力/健康行動/ストレス
Emotional Intelligence / Health Behaviors / Psychological Stress

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・松丸礼・大森美香・赤松利恵 (2008). 「食に関する不合理な信念」尺度の作成 - Irrational Eating Beliefs Scale (IEBS) の信頼性と妥当性の検討 - 栄養学雑誌 66 (3), 141-148.
- ・大森美香 2008 「第4章 カウンセリングと心理療法」『臨床心理学用語辞典』125-173 オーム社

◆研究内容 / Research Pursuits

- (1) 科学研究費補助金基盤研究(C)の研究プロジェクトとして、ヘルスリスク行動と感情調節能力およびストレスの関連を明らかにする調査研究を行った。222人の企業人からのデータを収集し、2009年にデータ解析を行う予定である。
 - (2) 本学、特別教育経費「リスク社会のためのコミュニケーションの開発」における院生参加型プロジェクトとして、「ヘルスコミュニケーション」に関する研究を展開している。2008年は、青年期ヘルスリスク行動の発生メカニズムの研究として、i) 青年期ヘルスリスク行動の日米比較研究、ii) 青年期女子のダイエット行動に及ぼす母親の影響に関する研究を行った。
 - (3) 本学グローバルCOEプログラム・国際格差領域のプロジェクトとして、青年期ヘルスリスク行動に関する研究を実施している。地域研究として、スリランカに焦点をあて、質問紙調査の予備研究として現地調査を行った。
- (1) I've been conducting a research project entitled as "The Development of Health-Promoting Program - Application of Emotional Intelligence" on a grant-in-aid from JSPS since 2006. In 2008, data were collected from 222 individuals during the year 2009 and the data set was ready to be analyzed.
 - (2) Participating in a project entitled as "The Communication Development for Risky Society," I conducted research projects with graduate student. Our focus centers around health risk behaviors of adolescents. During the year 2008, we conducted research involving i) Impacts of mothers' thin-ideal internalization on adolescents' dieting behaviors, and ii) Comparative study on adolescent health endangering behaviors b/w US and Japan.
 - (3) As a program member of the Global COE program at Ochanomizu University, I initiated a comparative study on adolescent health risk behaviors. In 2008, I conducted a field study on adolescents in Sri Lanka as a pilot study for a comparative study.

◆教育内容 / Educational Pursuits

臨床心理学および健康心理学に関する授業・研究指導を行った。大学院においては「健康心理学特論」「健康心理学特論演習」を担当し、成人期の心理的問題の実践や科学的研究の動向について授業をすすめてきた。学部レベルでは「臨床心理学演習(基礎)」「臨床心理学演習(応用)」を担当した。

研究指導は、卒業論文4件、修士論文主指導1件、博士論文審査(副査)を4件つとめた。

I taught classes related to clinical psychology. Graduate courses that I taught were Health Psychology and Seminar in Health Psychology. Particular emphases were placed on empirical research in these classes. Undergraduate courses involved two seminar in clinical psychology.

Theses that I chaired during 2008 involved four senior theses and one master's thesis. I sat on four dissertation committees.

◆研究計画

感情能力とセルフコントロールの観点からヘルスリスク行動を明らかにし、予防に有効な介入方法の検討を行うため、人材開発を主たる業務とする企業と共同研究を進めている。

2009年度に向けて、1)感情能力テストの有用性および感情能力のアウトカムに関する研究、2)青年期ヘルスリスク行動に関する比較研究を計画している。

◆メッセージ

臨床心理学は、心理的な問題の成り立ちや治療の方法に関わる領域ですが、広範な心理学の基礎知識のうえに成り立っています。臨床の場所では、個人の問題を理解し、どの方法がよいのか仮説をたて、治療法が効果的なものかどうか検証できることが求められます。こうしたことは、科学的な心理学研究法を学ばずには獲得できることではありません。

基礎的な心理学の知識と科学的な心理学の研究法をしっかりと勉強していただきたいと思います